



和田っ子通信

令和5年度 No. 7
 福井市和田小学校だより
 発行日 令和5年11月 1日(水)
 〒918-8238 福井市和田 1-2-1
 TEL:22-8817 FAX:22-6121

山よそおう ～深まりゆく秋 実りの秋～

始業式から数えて102日、入学式から数えて101日の10月12日、1学期の終業式を迎えました。式では、「和田っ子のあいうえお」をもとに1学期をふり返りました。10点満点のうち、ほとんどの児童が8点以上だったようです。満点にならなかった部分は、2学期の目標にするよう伝えました。ただ4月に比べて、新しいことが分かったり、できなかったことができるようになったり、成長を実感している児童が多いように思えました。さらに成長させるために「あきらめない心、くじけない心」が大切であることを伝えました。

保護者や地域の皆様と協力しながら、年度末に向けて児童の実りを大きいものにしたいと思います。

(文責：勝木)



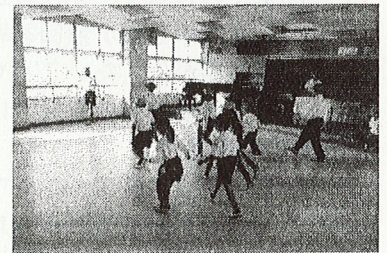
ある日の出来事から

新しいゲームが続々と...

10月11日、1学期最後のふれあいタイムがありました。これまでやったことのない新しいゲームを準備してきたグループがありました。例えば、「だるまさんが転んだ」の進化形「だるまさんの一日」は、オニの言葉に合わせて、転んだり、喜んだり、悲しんだり動作をつけるものでした。また、平均台を使った「ドンジャンケン」や6年生が隠した宝をみんなで探す「宝探し」、6年生がとったポーズの変化を見つける「間違い探し」、積んだ積木の高さを競う「積み木つみ」などもありました。

新しいゲームを考えてくる6年生のがんばりに頭が下がります。おかげで笑顔いっぱいの時間となりました。

～第4回ふれあいタイム～

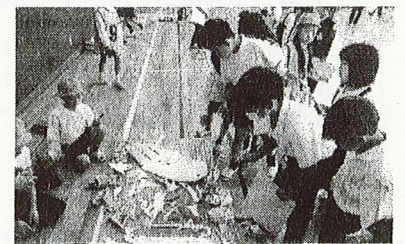


1年生を迎えて

～2年生 生活科「わくわくおもちゃランド」～

10月11日、2年生が生活科の時間に、1年生を迎えて「わくわくおもちゃランド」を開催しました。各クラス7種類のゲームコーナーをつかって、1年生をもてなしました。昨年度は、遊ばせてもらっていた2年生が、今度はお世話をする番です。ゲームの説明や1年生のサポートなど、自分の役割をしっかりと果たしていました。おかげで、1年生も楽しい時間を過ごすことができました。

やり終えた後の満足げな2年生の表情が印象的でした。がんばったね。



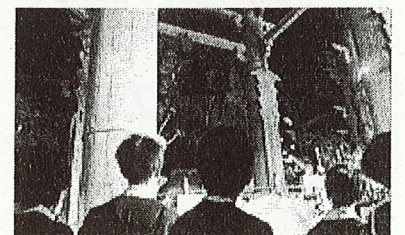
貴重な体験や学習ができました

～6年生 関西方面 修学旅行～

10月19日～20日、コロナ禍以来、4年ぶり2日間県外へ、修学旅行に行ってきました。一日目は、まず、京都でタクシー研修でした。平安神宮を起点に、運転手さんの案内で、活動班で決めた体験や名所旧跡見学をしました。次に、バスで奈良に移動し、お水取りで有名な東大寺二月堂を見学しました。二月堂から、生駒山に沈むきれいな夕日が見えました。

翌日は、早朝の東大寺大仏殿を見学しました。早朝の入場だったので、観光客も少なく、ゆっくり見学することができ、おかげで大仏殿や大仏の大きさが実感できました。そして、大阪に移動して、ユニバーサルスタジオジャパンで過ごしました。

6年生112名全員が参加できた修学旅行は思い出深い2日間になりました。



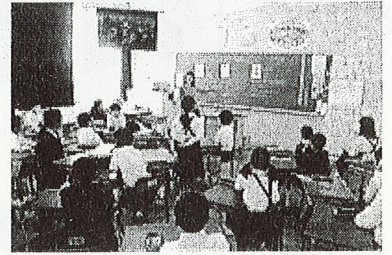
心づくり、学級づくりのために

～ポジティブ教育プログラム 始まる～

ポジティブ教育プログラムは、持続可能なしあわせを育む学級づくりや、児童の自己肯定感・自己有用感・適応力を育成し、いじめや不登校等の未然防止につながる目的で生まれたものです。本校では、講師を招き数回の研修を経た上で、今学期からそれぞれの学年で取り組んでいます。

プログラムは、社会性を育てる「ソーシャルスキル教育」、仲間同士の認め合いを育む「ピア・サポート活動」、逆境に負けない心を育てる「レジリエンス教育」に分かれており、授業はそこから、学年に必要なプログラムを選んで行います。

10月24日、4年生では、人気漫画のキャラクターを手がかりに、人それぞれによさがあることに気付き、その後で友だちのいいところ探しを行いました。そして、最後にお互いにいいところを教え合いました。児童は、認め合うことの心地よさ、大切さを感じたようです。



令和5年度 全国学力調査の結果から

学習状況調査（国語科・算数科・学習等に関する質問）が実施され、先般、結果が出ました。福井県は1位とはなりませんでしたが、それでも調査当初から全国の上に位置しています。そういった中、本校の6年生も、国語・算数で、国および県平均を上回りました。以下、本校の分析結果（一部抜粋）についてお知らせします。

1 国語科（領域：話す・聞く 書く 読む 言語）

【本校の全体的な傾向と課題】

- 全ての領域で、本校の正答率は県平均を上回った。特に、「話す・聞く」の領域では6ポイント高かった。
- 14問中8問が無回答率0%。「書くこと」に関する問題で無回答が多かった。
- 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題の正答率は高い。一方で、文章を読み取り、必要な情報を見つけること、文章の種類と特徴を理解することに課題が見られる。

【今後の手立て】

- ・資料をよく読み、キーワードを○で囲んだり、線を引かせたりする。問題をよく読み、何について問われているのかをしっかりと理解させるようにする。
- ・対比の文章を読む活動を取り入れ、文章の構造を学ぶことができるようにする。
- ・書く領域の無回答率が高いので、普段から、意図を明確にしてさまざまな文章を書く活動を計画的に取り入れる。

2 算数科（領域：数と計算 図形 測定 変化と関係 データの活用）

【本校の全体的な傾向と課題】

- 全ての領域において、本校の正答率は県平均と比べて高かった。特に、「データの活用」は県平均と比べて8.8ポイント高かった。
- 16問中11問が無回答率0%。記述式の問題の無回答率が高かった。
- 記述式の問題形式は、全て回答率が県平均より高かった。

【今後の手立て】

- ・新しい図形を学習するときは、既習の図形と比較したり、ジオボードで図形を作ったりして、性質について実感を伴う理解ができるようにする。
- ・低学年から、タングラムを使った活動や、具体物を使ったかたちづくりなどをして形に触れる機会をたくさんつくる。
- ・自分の考えを言語化して説明する活動を多く取り入れ、「書く」「話す」等の表現力を育成する。

校長室から

「いちごいちえ 一期一会」

～当たり前のごことに感謝の気持ちを～

毎朝、校門に立って児童と交わすあいさつ。一日の始まり、当たり前風景…。笑顔だったり寂し顔だったり、明るい声だったり暗かったり、時には何もなかったり。ただ誰一人として毎日同じあいさつはありません。

先日、令和4年度の不登校児童生徒数が30万人を越え、過去最高との報道がありました。今や児童生徒が毎日登校する姿は、当たり前とは言えなくなっているのかもしれない。

何でも当たり前と思ってしまうと、感謝の心を忘れてしまいがちです。ですから、このときのお会いに感謝する気持ちを大事にしたいですし、休みがちなお子には、手をさしのべてあげたいと思います。「登校してくれて、ありがとう」「笑顔や二言あいさつ、ありがとう」と。

